

# 赤沢地区 津波対策 平面図

ガード(国道135号のボックスカルバート)の耐震性が心配  
→ 定期的な道路パトロールを実施  
→ 道路の長寿命化計画で適切に維持管理  
(小規模なボックスカルバートは地震の影響を受けにくいとされている)

ブロック塀が危険  
→ ブロック塀撤去改良費用補助制度の利用促進

広域避難場所  
・八幡野小学校  
・対島中学校  
・伊東高校城ヶ崎分校

家屋倒壊時の避難路

集合場所

浮山広場

広域避難場所へ

赤沢護岸現況高5.5m

(H-2)耐久性診断  
→ (必要な場合)改良

(H-1)波返し  
開口部の改良

急な坂・崩落の危険あり  
→ (S-1)避難路の整備

(S-3)街灯の新設及びLED化に対する補助

(参考)レベル1津波  
必要防潮堤高さ  
T.P.+6.5m

ハード対策  
・レベル1津波による浸水を防ぐための護岸整備(かさ上げ)は実施しない

ソフト対策  
【情報連絡(事前準備)】  
・津波避難計画作成  
・総合防災ガイドブック(ハザードマップ)全戸配布  
・避難行動要支援者避難支援計画(個別計画)作成  
・自主防災会ごとの津波避難行動計画作成  
【情報連絡(発災後)】  
・Jアラート(全国瞬時警報システム)  
・同報無線(防災行政無線)  
・伊東市メールマガジン  
・テレビ(テロップ)・ラジオ  
・「災害用伝言ダイヤル171」の活用による安否確認  
} による  
情報入手

避難開始時間および避難時の移動速度を速める

※「避難困難地域」は、ソフト対策の実施により避難開始時間短縮および避難時の移動速度を速めた場合でも避難が困難と思われるおおよその地域を示しています。  
(赤沢地区にはありません)

- 護岸(現況維持)
- 広域避難場所
- 津波避難協力ビル
- 指定避難所
- 津波浸水想定区域外への避難路
- レベル2津波浸水エリア
- 避難困難地域

